

## 県指定文化財<史跡>

### しょうごじあと 聖護寺跡

指定日 昭和40年2月25日

所在地 菊池市班蛇口 鳳来



菊池市の北部、鳳来<sup>ほうぎ</sup>集落から約2km奥まった山に聖護寺跡がある。

この寺については、玉名の広福寺文書のなかに、延元3年(1338)13代菊池武重の「寄進シ奉ル……聖護寺ノ敷地ノ事」「鳳儀山ノ境ノ事」があり菊池氏の庇護が厚かったことがうかがえる。

寺院は12代菊池武時に招かれた大智禅師により建立された。大智は宇土郡長崎村(現宇城市不知火町)に生まれて、川尻の大慈禅寺に入り、後に永光寺(石川県)で修行し、やがて元に渡り学んだ禅僧で、永平寺(福島県)第6代の正嫡となる。禅師は13代武重、14代武士や菊池一族の人々の教導にあたり、菊池の精神文化の育成に貢献した。

聖護寺は禅師が玉名に移ると、その後数十代続く。寺内の古塔群から明応6年(1497)「当寺九世令峻」との僧名が認められる。

大智禅師の遺徳を慕い、村上素道師が昭和17年頃入山し、再興に尽力した。